



# 大震災の記憶を歴史として引き継ぐために

奥村, 弘

---

**(Citation)**

神戸大学 震災復興支援・災害科学研究推進室第8回シンポジウム「阪神・淡路大震災から25年～  
私たちは何を学び、どこへ向かうのか～」

**(Issue Date)**

2022-01-22

**(Resource Type)**

conference object

**(Version)**

Version of Record

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81011951>



# 大震災の記憶を歴史として引き継ぐために

襖下張り古文書保存による新たな住民参加型研究



東日本大震災津波被害 宮城県石巻市門脇地区 残された土蔵から歴史資料を保存

神戸大学大学院人文学研究科教授

奥村 弘

# (1) 阪神・淡路大震災から25年の歩み

(1) 地域歴史遺産の保全と災害資料の保存による地域の記憶の未来への継承という考え方の**通念化**とその担い手としてネットワーク型組織の全国的展開

歴史資料ネットワーク 1995から 全国展開

神戸大学・東北大学・人間文化研究機構（歴博・民博等）

「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」2018から

(2) 地域歴史文化の継承と充実のための新たな研究手法の開発＜地域歴史資料学の構築＞と市民・自治体への支援の取組 ※災害に強い文化＜災害文化＞

地域歴史資料学研究グループ 科学研究費S及び特別推進研究（2009から）

「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」（2019-23）

神戸大学人文学研究科地域連携センター（2002～）

奥村弘編『歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築』東京大学出版会、2013年1月

奥村弘・村井良介・木村修二編『地域歴史遺産と現代社会』神戸大学出版会、2018年1月

歴史文化を  
大災害から守る  
地域歴史資料学の構築

奥村弘 編



地域づくりの  
基礎知識  
1

地域歴史遺産と  
現代社会

奥村弘  
村井良介  
木村修二 編

神戸大学の風

# なにを対象とするのか 被災歴史資料と災害資料

阪神・淡路大震災（1995.1.17）から、東日本大震災（2011.3.15）に至る地域の歴史資料保存活用

## 1) 被災歴史資料

大震災によって水に濡れ、破損し、泥まみれ になった地域社会の歴史を未来に伝える歴史資料

## 2) 災害資料（震災資料）

地震発生後、被災の状況や生活の復興過程に関する様々な資料であり、大災害の記憶を未来に伝えていくもの 作られつつある歴史資料

被災地域の歴史は、この二種類の歴史資料により過去から未来へとつながっていく。



Left: June 28, Miyako, Iwate,  
Individual “memories”  
collected  
from the heap of rubble.

Right: March 20, Albums,  
Onagawa, Miyagi



East Japan Earthquake Picture Project



●切りとって外国人の方にお渡しください。

英語



### NGO Network for Foreigners' Assistance KOBE

(Free Confidential Consultation)

**☎ 078-232-1290**

- Every Wednesday 14:00~20:00
- Every Saturday 11:00~17:00

スペイン語



### La red de asistencia a los extranjeros

El consejo telefónico para Solucionar los diversos asuntos. (aconsejamos gratis y guardamos el secreto)

Nuestra líneas abierta en KOBE

**☎ 078-232-1290**

- Miércoles 14:00~20:00
- Sábado 11:00~17:00

ポルトガル語



KOBE

### NGO Rede de Assistência aos Estrangeiros

Linha Direta para Consulta de Vida

(gratuito, confidencial)

**☎ 078-232-1290**

- Quarta 14:00~20:00
- Sábado 11:00~17:00

### ご協力のお願い



「会員になって下さい」

NGO 神戸外国人救援ネットでは活動を支える会員を募集しています。

【年会費】 3,000円です。



「カンパのお願い」

NGO 神戸外国人救援ネットの活動は会員のみなさんの会費のほか、寄付金や助成金によってまかなわれています。震災から時が経つにつれ、財政状況も厳しくなってきました。カンパの方もよろしくお願いします。

<郵便振替>

1100-2-60701 NGO 神戸外国人救援ネット



「集めています」

未使用のテレホンカード、切手、図書券、文具券など。外国人支援活動に役立てます。



「ボランティア募集中」

随時、英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語の通訳・翻訳ボランティアを募集しています。事務局までお問い合わせください。

### 連絡先

〒650-0004

神戸市中央区中山手通 1-28-7

カトリック社会活動神戸センター内

Tel: 078-241-6445

Fax: 078-241-6480

Email: gqnet@po.hyogo-ic.ne.jp

http: //www.hyogo-ic.ne.jp/~gqnet/



このリーフレットは日本財団の助成金を受けて作成しました。



NGO神戸外国人救援ネット



震災から共生へ  
外国人とともに暮らす  
まちをめざして

### NGO神戸外国人救援ネット

NGO Network for Foreigners' Assistance KOBE

Email: gqnet@po.hyogo-ic.ne.jp

http: //www.hyogo-ic.ne.jp/~gqnet/

※GQnetとは Gaikokujin Q-en net の略です



岩手県立図書館で公開中の震災資料



第1期の活動 倒壊家屋からの資料保全



第2期の活動 地域の研究者との巡回調査



←宝塚市での古文書教室→「宝塚古文書を読む会」として現在につながる



2004年秋の大水害での学生による水損史料の保全活動



←2003年宮城県北部連続地震の際の被災調査と保全活動

東日本大震災での宮城資料ネットの活動(別紙)

# ●大災害に対応した歴史資料保全団体(史料ネット)の発展

連携による  
広域支援

2019年東日本水害

●信州ネット●東海ネット

○山形文化遺産防災ネットワーク<予防2008年>

●岩手歴史民俗ネットワーク  
(東日本大震災)

●新潟歴史資料救済ネットワーク  
(中越地震2004年)

●宮城歴史資料保全ネットワーク  
(宮城県北部地震2003年)

○地域史料保全有志の会(長野県栄村 東日本大震災)

●ふくしま歴史資料保存ネットワーク  
<予防2010年>

●福井史料ネットワーク(福井豪雨2004年)

●茨城史料ネット(東日本大震災)

●山陰歴史資料ネットワーク  
(鳥取県西部地震2000年)

●千葉歴史・自然資料救済ネット  
(東日本大震災)

●広島歴史資料ネットワーク  
(芸予地震2001年)

●神奈川地域資料保全ネットワーク<予防2011年>

静岡県文化財等救済ネットワーク<予防2012年>

●史料ネットやまぐち(芸予地震2001年)

歴史的・文化的資産保存活用連携ネットワーク(三重)

●歴史資料保全ネット・わかやま(和歌山豪雨2011年)

●は、大学に拠点を置く組織  
赤字は大規模震災と関係して結成  
緑字は予防を目的として結成

●岡山史料ネット  
<予防2005年>

●歴史資料ネットワーク  
(阪神淡路大震災1995年)

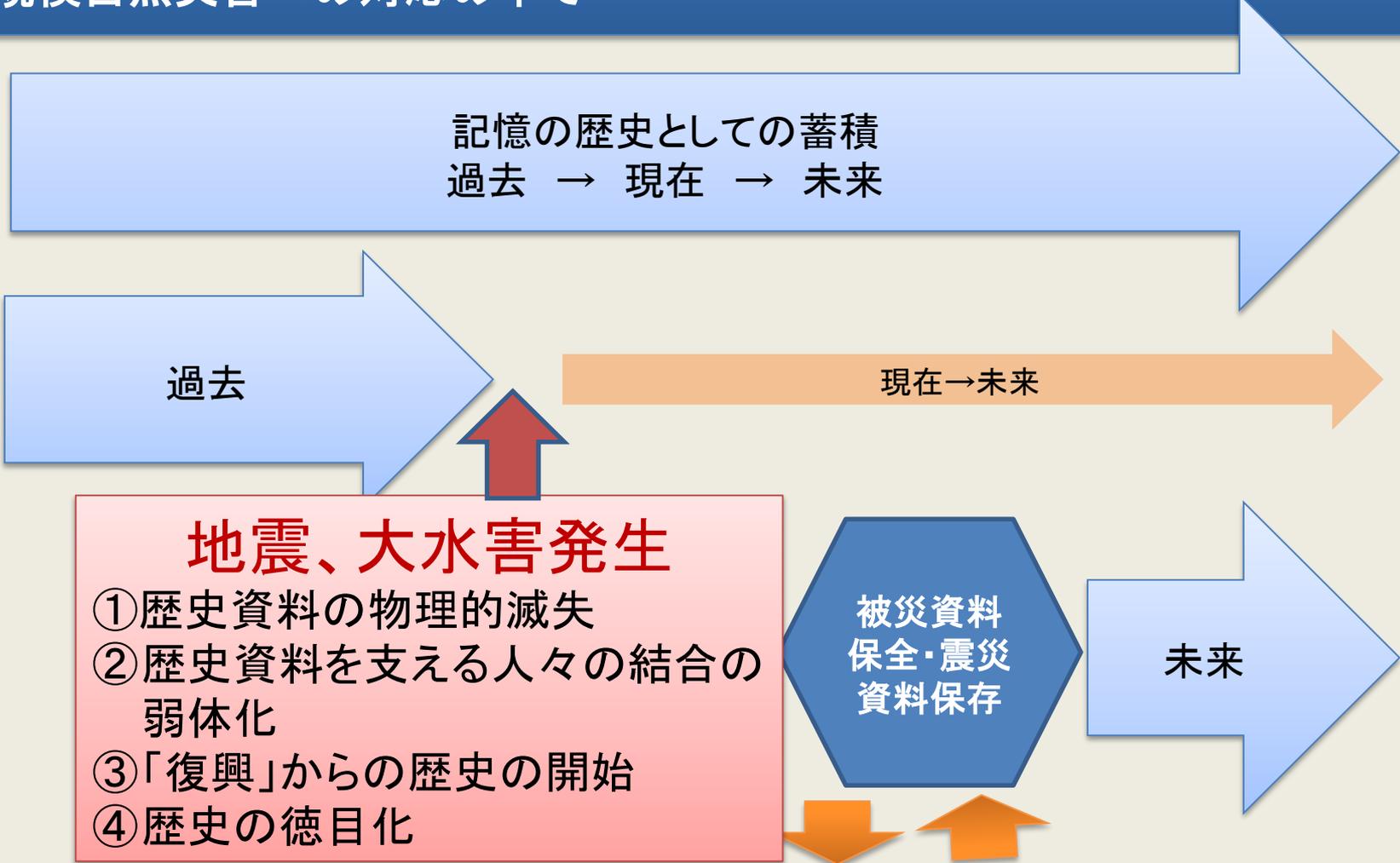
○宮崎歴史資料ネットワーク(2005年宮崎豪雨)

●歴史資料保全ネットワーク・徳島<予防2012年>

●鹿児島歴史資料防災ネットワーク(予防、2018年)

●愛媛資料ネット(芸予地震2001年)

(2) 大規模災害、社会構造の変化、人口減による地域社会の記憶を歴史として引き継ぐ文化の消滅の危機 → **地域歴史文化の継承と充実に資する研究領域の形成** ←  
大規模自然災害への対応の中で



地域の記憶を歴史として引き継ぐという課題の明確化 → 地域住民自身が参加する手法と、それを可能とする新たな学術的方法として **地域歴史資料学を構築** **地域歴史遺産**

# 地域社会の危機と歴史文化

地域の歴史文化の解体の危機の拡大高齡化、コミュニティーの解体による記憶継承力の低下、平成合併による困難の増大

	1886(明治19)年	2009年	2018年10月
養父郡	39,206人	→ 養父市28,306人	→23,805人
多紀郡	46,017人	→ 篠山市45,352人	→41,876人
氷上郡	70,934人	→ 丹波市70,810人	→64,736人

※灘区の人口の過半数は震災後流入  
神戸市は2019年  
まで7年減少

	1970年	2010年
釜石市	72,923人	→ 39,578人
陸前高田市	30,308人	→ 23,302人
南三陸町(9)	22,943人	→ 17,431人
気仙沼市(19)	87,914人	→ 73,494人

南三陸町震災後の人口 2013年11月末  
死者618人行方不明219人 →14,738

南三陸町(74地区)  
明治8年  
志津川村、清水浜村、荒戸浜村の3か村  
合併、本吉村。(明治合併なし)  
明治28年10月31日  
本吉村が町制施行、志津川町。  
昭和30年3月1日(昭和合併)  
志津川町(31)、戸倉村(16)、入谷村  
(10)1町2村合併し、志津川町。  
平成17年10月1日(平成合併)  
志津川町と歌津町(17)の2町が合併し、  
南三陸町となる。

# 日本の重層的な地域社会と地域歴史資料の関係

広域な地域 東北・関西等

都・道・府・県 47

企業

NPO/NGO

- ① 大規模自治体の下に重層的な住民団体がある。
- ② 住民団体は、民間の団体であり自治体とは認められていない
- ③ しかしながら、大規模自治体は、住民団体なしには機能しない

平成の自治体 1,700

中学校区等→昭和の村 3,500

支所・小学校区→明治の村 15,000

区・部落→近世町村 80,000

集落 140,000

近世町村レベルの古文書20億点 世界遺産級

# 只見町 川と人の物語

平成三年七月の水害後に  
聞き書きをききを通し？

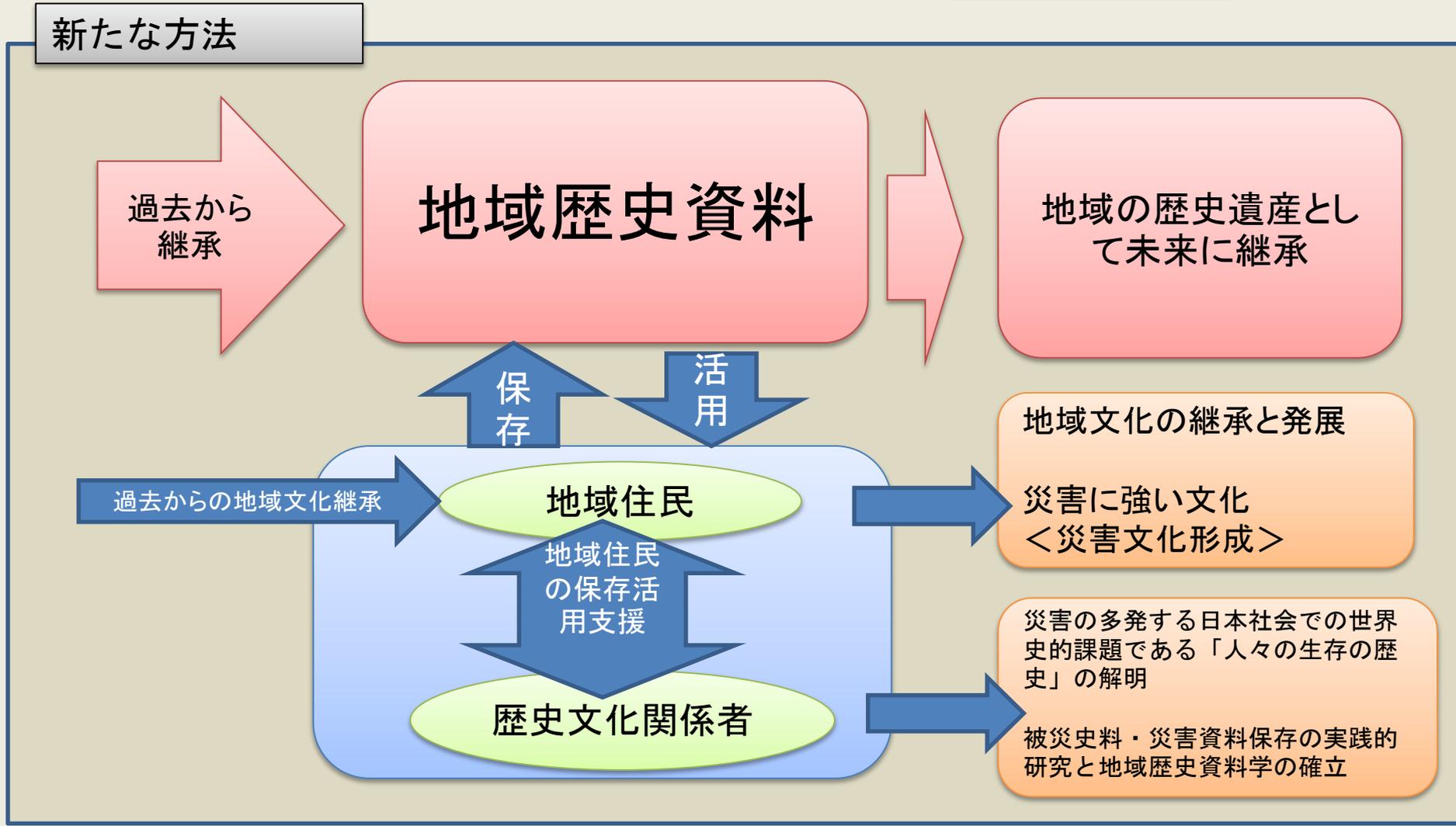
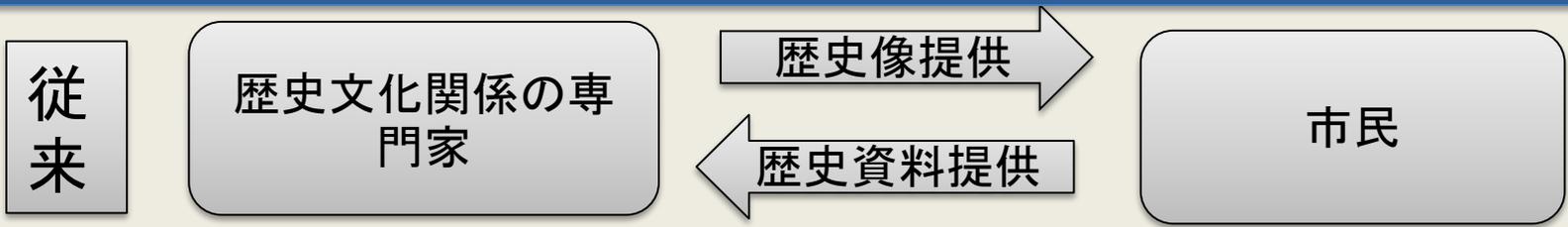


『平成**23**年**7**月只見町豪雨災害の記録誌』とあわせて、『只見町 川と人の物語』の発行。

## 「発刊によせて」より

只見町は、これまでも大きな水害を経験しており、人々はその都度、災害を乗り越えながら川と共存してきた歴史があります。私たちはこうした歴史から得た教訓が今回の水害にも活かされたのではないかと考え、より人々の暮らしに寄りそった「聞き書き」という形で、川をめぐる人々の営みを記録することにしました。

### (3) 広がる地平 ①歴史学における専門家と市民との関係の大転換



# 地域歴史遺産とは

それを残し続ける主体的な人々の営みを含みこむもの。古文書であるとか石造物であるとか、考古遺物あるとかという、そこに残された素材の性質に着目するというよりは、残された「もの」を巡る現代日本社会の人と人との関係に注目するもの。その素材が、それを地域社会の中で活用し、次の世代へと引き継いでいく人々の姿を想定する中で、位置づけられている。

## 例) 地域自治会の記録

全国どこにいても存在、しかし記録された地域の出来事は、その記録にしか残されない。他のものと代え難いもの

※東日本大震災→がれきから記憶を集める

# 変わりつつある歴史研究の手法 門知と社会知（市民知）の関係

## ー変化する専

各地の実践的活動の中からの具体的な方法の提示

- 水損史料の応急処理の方法を具体的に学ぶ水損史料ワークショップ
- 市民参加のもとで、写真撮影や定型化した袋に番号をふって整理する新たな歴史資料整理法
- 襖下張りとなっている生活生産に関する古文書を地域住民が襖から剥がし保存する市民参加型の保存作業プロジェクト
- 市民とともに古文書の虫干しを行い、内容を深める集中曝涼
- 歴史研究者のアドバイスや史料調査法の基礎を学んだ上で市民自身が歴史叙述を行う字史編さん活動や「地域編」を持つ自治体史
- 市民が災害資料収集の担当として関係組織を訪問する震災資料収集事業



# 失われた街模型復元プロジェクト



## ⑱ 南気仙沼駅周辺 [宮城県気仙沼市]

Minami Kesennuma Station/Kesennuma city/Miyagi Prefecture

【被災概要】

気仙沼市内の新市街地にあたり、最も被害が大きかった地域の一つである芥天町・南気仙沼駅周辺。直後の  
が襲った。また、地域を流れる大川の河川敷は桜の名所としても賞しまれ、地域の人々によって大切に護ら  
も、その年のうちに気丈にも花をつけた。荒上げ対象地区であるため、生き延びた桜による最後の「さくら

制作大学：アール・ヴェーク建築設計事務所・神戸大学建築研究室・気仙沼市役所

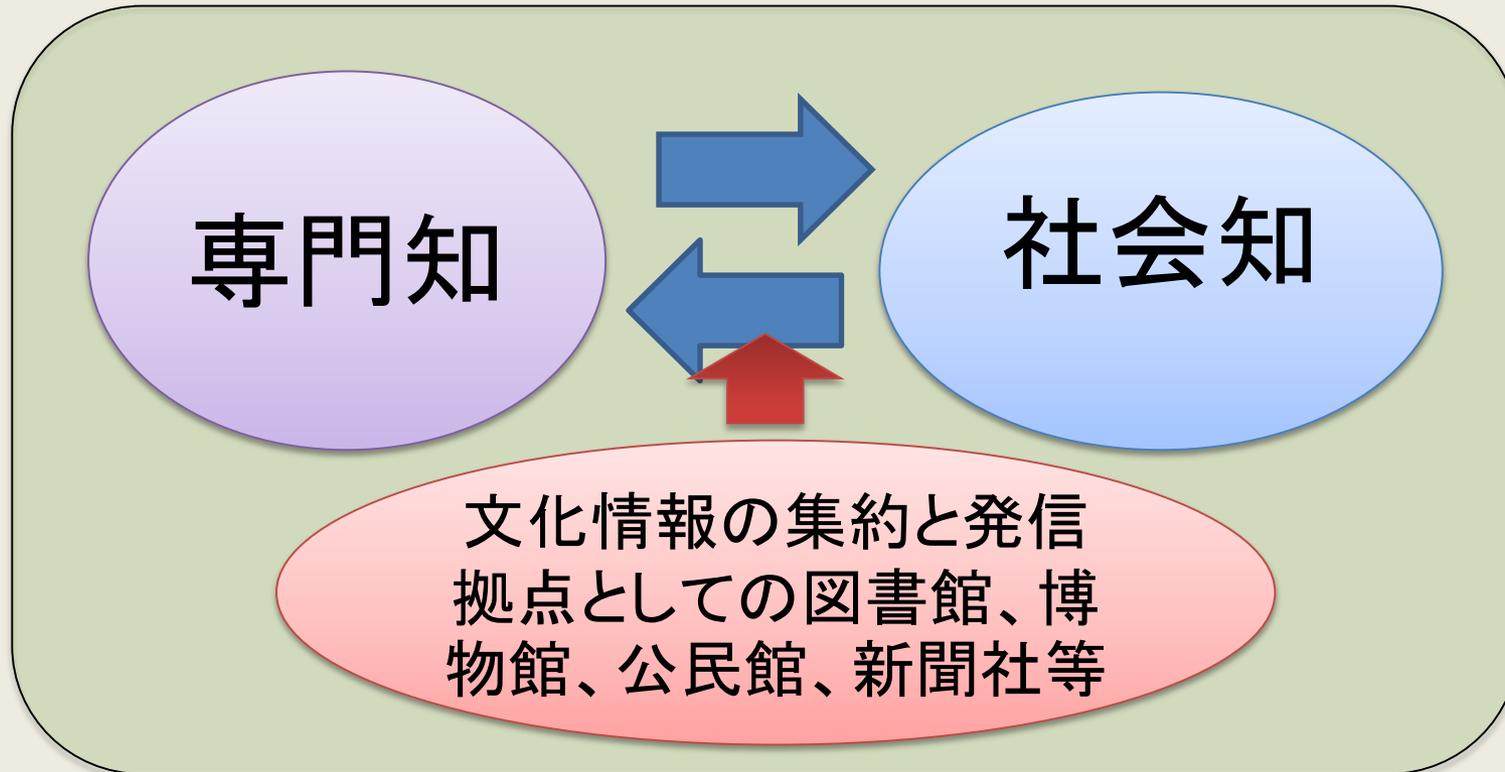
失われた街や村を1/500の縮尺の模型で復元し、地域に育まれてきた街並みや環境、人々の暮らしの中で紡がれてきた記憶を保存・継承していくことを目指しています。復元模型の制作は建築学生によるボランティアを中心として、地域の皆様、その他街の再生を願うすべての皆さんの協力を仰ぎながら進めていきたいと思ひます。

# 被災地の手法を地域歴史文化研究に

兵庫県福崎町でのジオラマ模型作成、聞き取りワークショップ（2015年8月8日－12日）







地域を支え、発展させる文化基盤の創出

関係文献

神戸大学人文学研究科地域連携センター編『「地域歴史遺産」の可能性』岩田書院、2013。

奥村弘『大震災と歴史資料保存－阪神・淡路大震災から東日本大震災へ』吉川弘文館、2012。

板垣貴志・川内淳史編『阪神・淡路大震災像の形成と受容－震災資料の可能性－』岩田書店、2011年。

# 広がる地平 ③国際的な地域歴史文化プラットフォームに向けたネットワーク

エルテ大学・ハンガリー国立博物館

- ・ 地域歴史文化コンソーシアム形成

イタリア国立保存修復高等研究所

- ・ 文化財防災マップ

国立台湾歴史博物館

- ・ 災害文化の展示事業

シャルクアン大学

- ・ 津波地域の記憶の継承

ハーバード大学

- ・ 地域災害資料データベース

## 世界のハブとなり地域歴史文化研究の中核的な役割を果たす

2020年国際歴史学会議でパネルを開催

